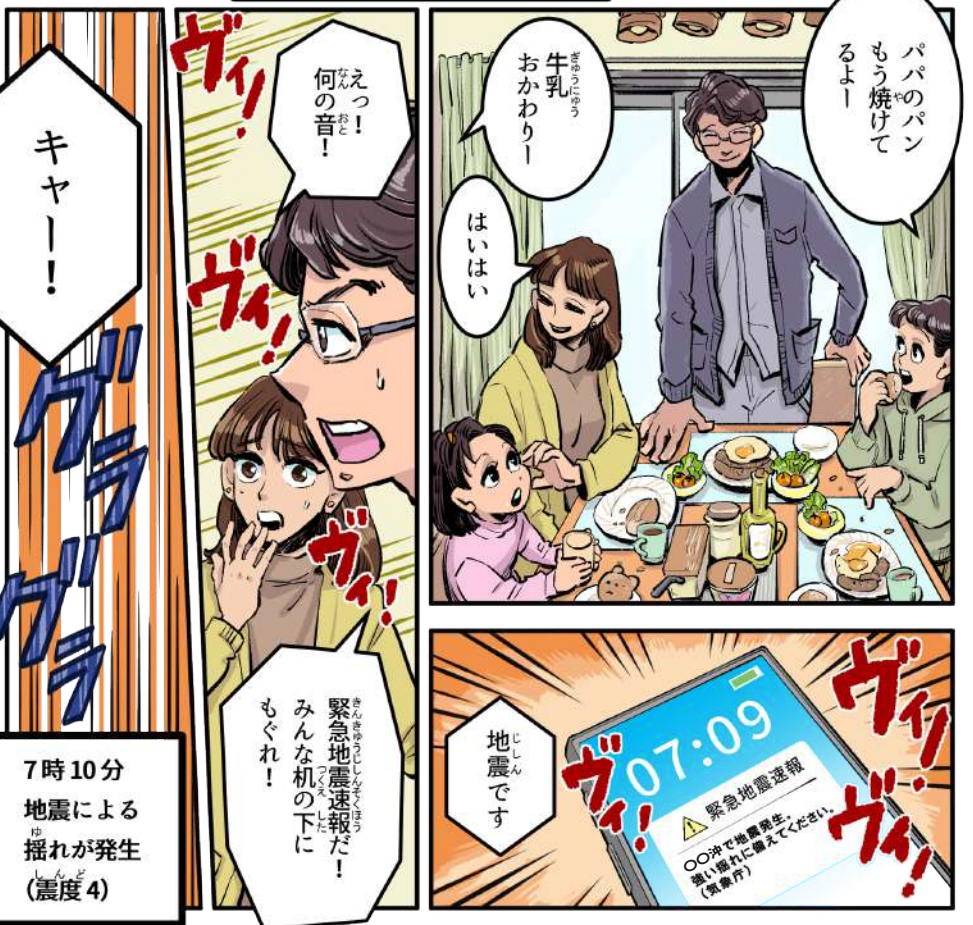




北海道在住の千島家



日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に備えるためのマイタイムライン

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震がいつ起こっても対応できるように事前に備えておきましょう。

基本的な事項と地震への事前の備え

- 住んでいる場所： _____
- 家族構成： _____
- 持病の有無など： _____
- 避難場所と経路： _____
- 非常持ち出し袋の中身： _____

地震発生

- どこに誰と避難しますか： _____
- 避難の時に何を持って逃げますか： _____

地震発生後
2～3分後

津波警報発表
(地震発生約3分後)

地震発生から最短2時間後

北海道・三陸沖後発地震注意情報発表

津波警報解除

- 家に帰ってからどのような地震への備えを行いますか： _____

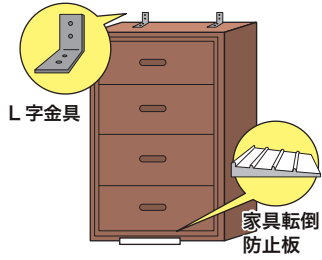
地震発生から
1週間が経過

- 通常の生活に戻りつつも、どのようなことに気をつけながら生活をしていきますか： _____

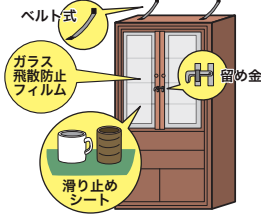
日頃からの地震への備え

すぐにできることから始めよう

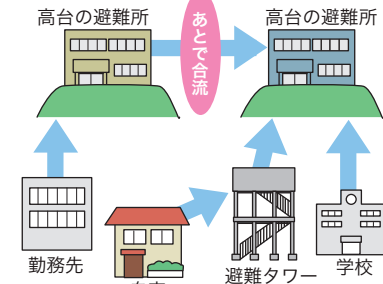
●家具の固定



●強い揺れで物が落ちてこないか



●避難場所や避難経路



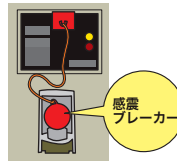
●家族との集合場所を話し合っているか

いざという時の集合場所を家族で話し合っておこう。



●出火防止対策

漏電遮断機や感震ブレーカー等を設置



●非常持出袋

避難先で一夜を過ごすこともあります。季節によって中身を変えたり等、工夫しましょう。

貴重品



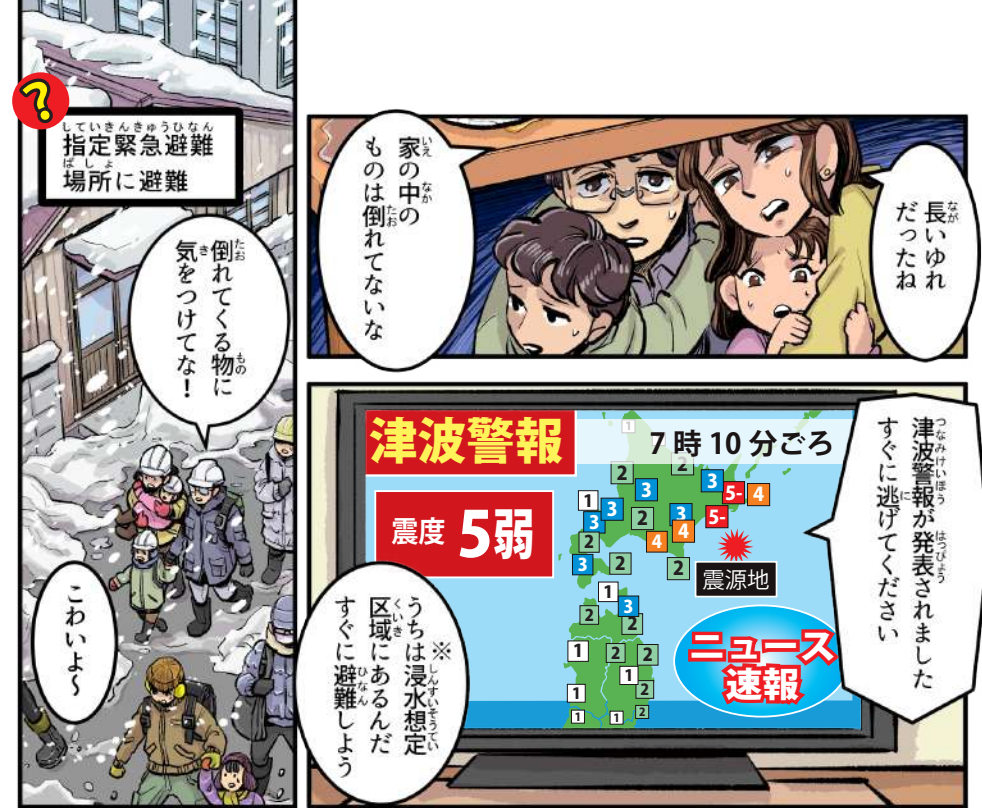
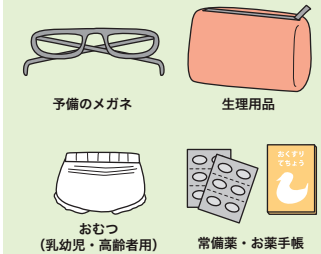
まず入れておくもの



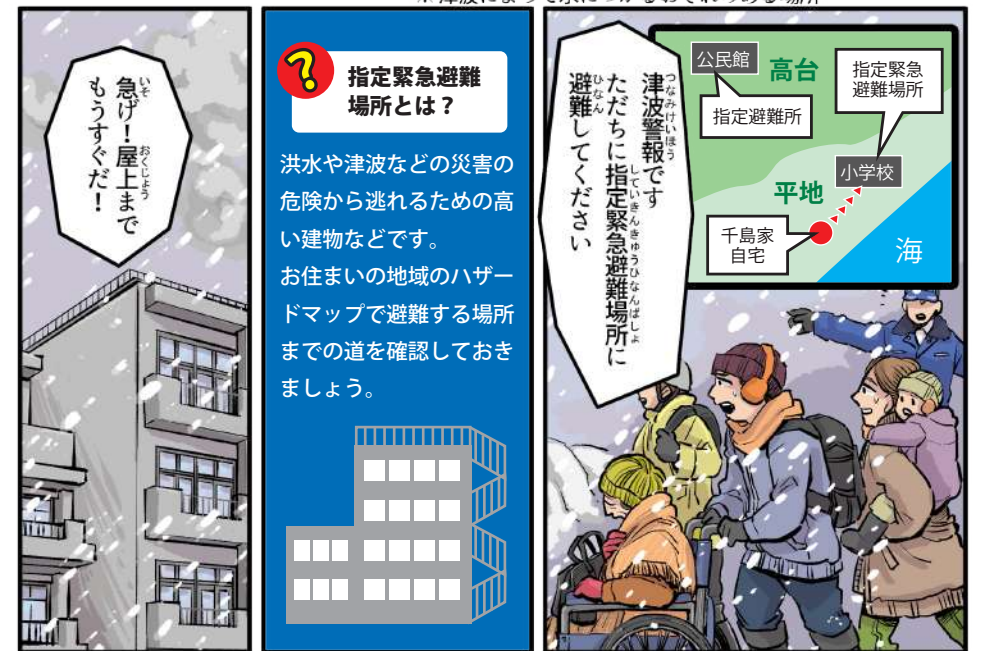
入れたほうがいいもの



人によって必要なもの



※津波によって水につかるおそれのある場所



※北海道の東側



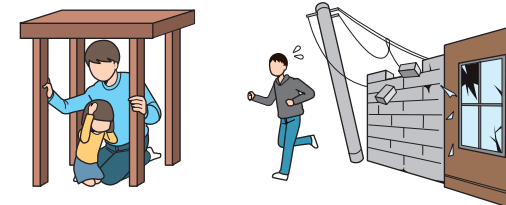
揺れを感じたら…

屋内

- 頭を守る姿勢をとる
- 慌てて火を消しにいかない

屋外

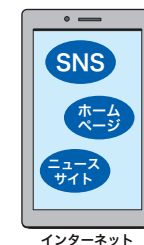
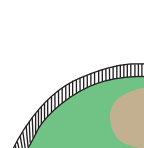
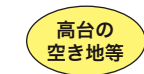
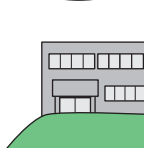
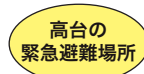
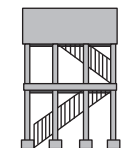
- ブロック塀や窓ガラスから離れる
- 倒れそうな電柱、垂れ下がった電線、落ちてきそうな看板などに近づかない
- 公園や空き地で揺れがおさまるのを待つ



揺れがおさまったら…

- 安全な場所に避難しよう

- 正確な情報を入手しよう



インターネット



ラジオ

悪質なデマには気をつけよう!

信じていい情報

- 市町村、都道府県、国が出す情報(公式 SNS 含む)
- 地元の新聞社、テレビ局、ラジオ局の情報

正確ではない情報

- SNS 等で流れるうわさ
- 「〇〇がこう言った」などの二次情報

津波の警報について

地震が発生してから約3分を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を、津波予報区単位で発表します。この時、予想される津波の高さは、通常は5段階の数値で発表します。ただし、マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合、精度のよい地震の規模をすぐに求めることができないため、「巨大」や「高い」という言葉を使った大津波警報・津波警報で、非常事態であることを伝えます。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表(予想される津波の高さ区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超(10m<予想される津波の最大波の高さ) 10m(6m<予想される津波の最大波の高さ≤10m) 5m(3m<予想される津波の最大波の高さ≤5m)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m(1m<予想される津波の最大波の高さ≤3m)	高い	標高の低いところで津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m(0.2m≤予想される津波の最大波の高さ≤1m)	表記しない	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだや漁船が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

避難のポイント

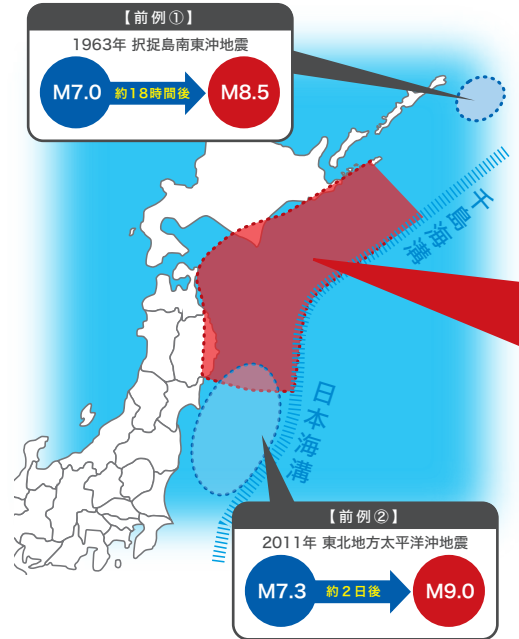
- 震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
- 津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
- 津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
- 津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。

北海道・三陸沖後発地震注意情報とは

※三陸沖：青森県、岩手県、宮城県の太平洋沖

続いて発生し得る巨大地震にも備えよう

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、突発的に地震が発生した場合を想定し、平時から事前の防災対策を徹底し、巨大地震に備えることが重要です。これに加えて、この領域では、一度M7クラスの地震が発生した後、続いて大きな地震(後発地震)が発生した事例があります。実際に後発地震が発生する確率は低いものの、発生した場合に一人でも多くの命を救うため、想定震源域及びその周辺でM7.0以上の地震が発生した場合には、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信されます。



日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域

想定震源域及びその周辺(Mの大きさで変わる)でM7.0以上の大地震が起きたら…

続いて発生する巨大地震の可能性！情報で備えを

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信

通常の生活をしながら、1週間程度巨大地震に備える

※M：地震の規模を表すマグニチュード

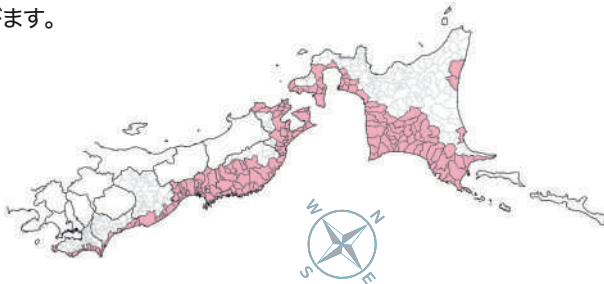
情報発信に伴い防災対応をとるべきエリアは…

●北海道から千葉県にかけての広範囲に及びます。

防災対応をとるべきエリア

防災対応をとるべきエリアの基本的な考え方

- 震度6弱以上の地域
- 津波高3m以上の地域
- 地震防災対策の一体性から、防災対応をとるべきと考える地域

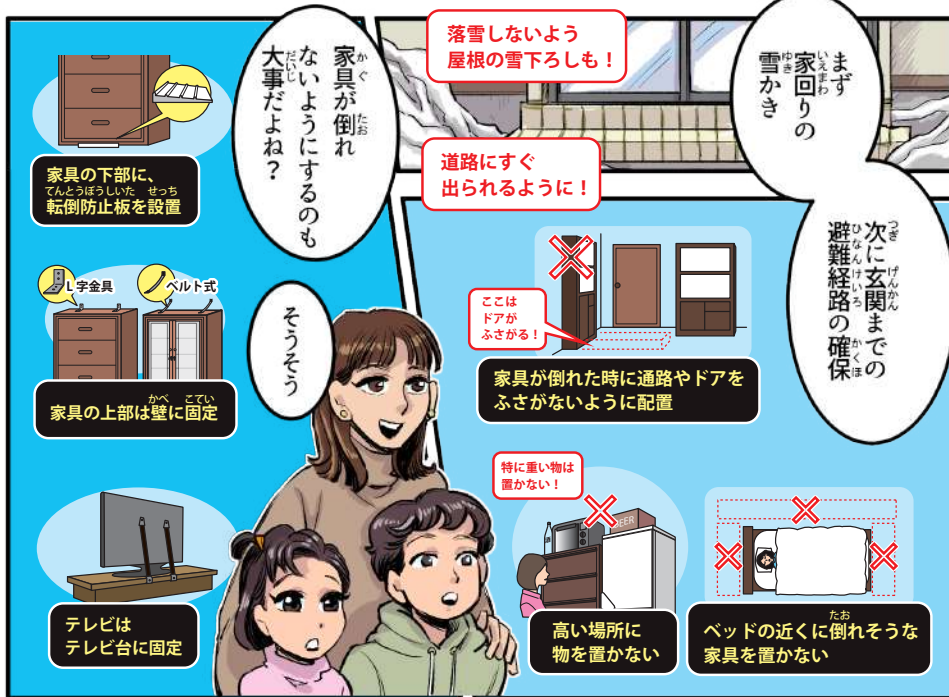


北海道・三陸沖後発地震注意情報とは？

日本海溝・千島海溝沿いで発生した地震が原因で、日本海溝・千島海溝沿いで続けて巨大地震が発生する可能性が通常よりも高まっている際に発表される情報のこと。

詳細はP説5～説6

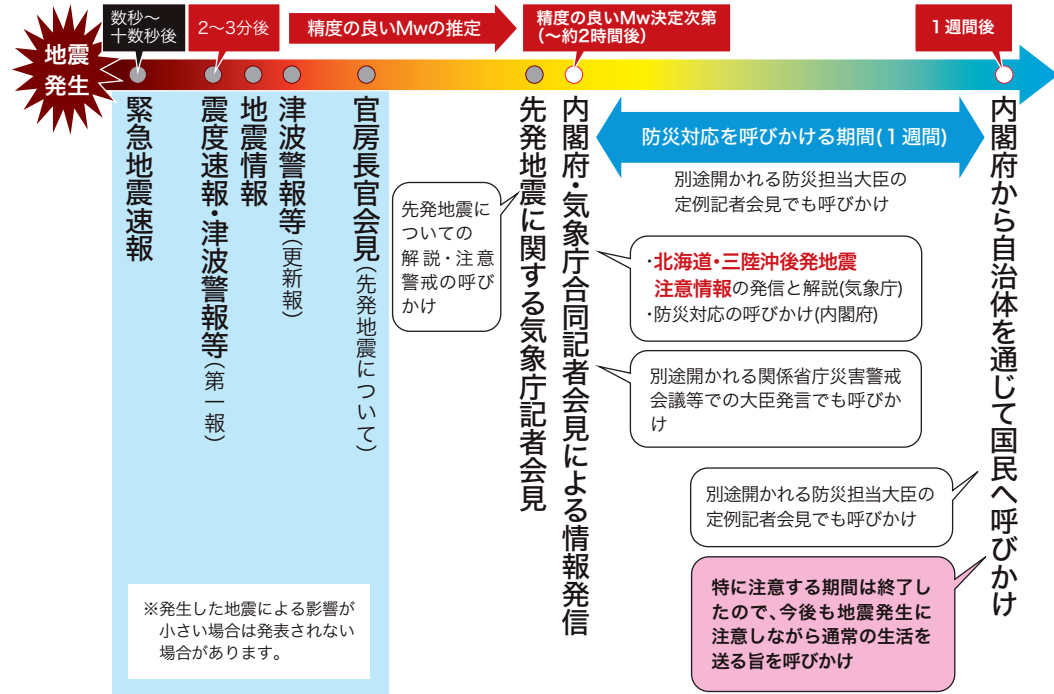
地震 → **続けて巨大地震の可能性！**



情報発信の流れ

情報発信の条件を満たす地震が発生した場合、気象庁から北海道・三陸沖後発地震注意情報を発信し、内閣府からとるべき防災対応の呼びかけを行います。

- 情報発信の流れは、先発で発生した地震による影響の大きさによって異なります。
- 市町村の計画に基づき、防災行政無線やメール・FAX等で皆様のもとに情報が伝えられます。



情報発信時の留意事項

- 後発地震の発生可能性は、世界的事例を踏まえても百回に1回程度で、1週間のうちに必ず後発の大規模地震が発生するとは限りません。
- 本情報では、地震発生後1週間は、後発地震に備えた防災対応を呼びかけますが、事前避難は呼びかけません。また、1週間経てば、後発地震が発生する可能性がなくなるわけではありませんので、引き続き、地震の発生に注意が必要です。
- 本情報の発表がないまま、突発的に巨大地震が発生することもあるため、日頃から地震への備えを行うことが大切です。

北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時の

マンガで描かれている、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表を受けて、社会はどのような地図で位置関係を整理しながら、各地域で何が起こっていたのかを見てみましょう。

先発地震の影響：中 (震度1～4) (津波注意報)

- ・揺れを感じるが、屋外・屋内ともに大きな被害は発生しない
- ・避難所は開設されず、避難者なし
- ・津波注意報に伴い、海岸堤防等より海側の地域にいる人を対象に避難指示が発令される
- ・震度4程度の沿岸地域では、揺れに伴い自主的に避難する住民あり



先発地震の影響：小 (揺れなし) (津波警報・注意報なし)

- ・揺れを感じず、震度に関する情報の発表もないため、地震が発生したことに気づかない
- ・津波警報等の発表がない(津波予報を発表する可能性あり)ため、地震が発生したことに気づかず、避難者もいない



※先発地震の影響は、このマンガの設定を基にしたものです。
大きな地震は、想定震源域の外側を含め日本中どこで発生してもおかしくありません。

地域の津波ハザードマップ

